

視察調査・研修会等報告書

令和 4年 7月 20日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 覚)



研修・視察年月日	令和 4年 7月 13日～15日
研修会場・視察先	1. 福岡県北九州市 2. 山口県山口市 3. 岡山県岡山市
研修名・視察目的	1. 介護ロボットを活用した北九州市の取り組みについて 2. 山口市産業交流拠点施設について 3. 岡山市におけるSDGS・ESDの取り組みについて
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	1. 保健福祉局 先進的介護システム推進室次長 堀江 吏将 2. 商工振興部 ふるさと産業振興課長 金子 忠正 3. 市民協働局 SDGS・ESD推進課長 岩田 裕久
参加議員(同行者)	関 良平 小川 亘 福田 洋一 岡田 裕 篠崎 佳之 福田 幸平 渡邊 一郎 高橋 栄
調査概要	1. 介護ロボットを活用した北九州市の取り組みについて (伴走支援する北九州モデル・テクノロジー活用) 2. 山口市産業交流拠点施設について (新山口市駅前北地区重点エリア整備) 3. 岡山市におけるSDGS・ESDの取り組みについて (ESD持続可能な開発のための教育岡山モデル)
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1. 高齢化率が高く生産年齢人口も急速に減少することが予測されるため、ロボット・ICTで介護施設へ価値を提供する解決策である。テクノロジーを利用して業務改善することは今後の小山市にも活かせるものと考えます。更に、職場環境改善・介護の質の向上により安定した「時間を生み出す介護」になるので利用度も満足するはずで 2. 小山駅の東西口の現状をみて再開発等及び築 44 年が経つ小山市文化センターの今後を見据えると「産業文化交流施設」として整備することの必要性があると考えます。更に、建築技術的にも格段の進歩をしていることを目の当りにし省スペースで複合的な施設配置が

視察調査・研修会等報告書

できる為、小山市の場合例えば 2,000 人収容規模の可変型ホールを整備し、各種学会や大会、コンサート、講演会、展示会などに利用できるようにすべきであると考えます。

3. 「持続可能な開発のための教育ESD」があつてこそそのSDGSであると改めて再認識しました。ESDがSDGSな社会の担い手を育むことになり「学び・考え・行動する人」を世界に送り出すことになります。小山市ではコウノトリ・渡良瀬遊水地の生物多様性やごみ問題・交流センターを活用したコミュニティーの学び・ボランティアの地域貢献活動など様々なESDがありますのでこれらに参加することで、将来の小山市と世界のことを共に学び・考え・行動する人が集う地域として根ざしていくものとかがえます。

視察調査・研修会等報告書

令和 4年 8月 30日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 寛



研修・視察年月日	令和 4年8月17日～19日
研修会場・視察先	1. 北海道北広島市 2. 北海道美唄市 3. 北海道千歳市
研修名・視察目的	先進地事例を研究するため
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	1. 経済部農政課長 山田 孝博 2. 宮島沼水鳥・湿地センター長 牛山 克己 3. 保健福祉部母子保健課長 金川 律子
参加議員(同行者)	福田洋一、岡田裕、篠崎佳之、福田幸平、高橋栄
調査概要	1. グリーンツーリズム推進事業について 2. ラムサール登録湿地・宮島沼の利活用について 3. ちとせ版ネウボラについて (妊娠から出産子育てまでの切れ目のない支援)
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1. 市内農業者の減少に対し決定的な対策ができない中、農地の荒廃化の恐れがある為、札幌市近郊のまちという立地を生かし農地の有効活用や保全を個別に実施してきた。平成14年12月 北海道の開発審査会においてグリーンツーリズムに必要な建築物が付議基準として追加されてから、農地保全・経営の多角化がスピードアップしてきた。平成19年1号直売所が完成し順調に推移し、施設等の年間入込数としても令和2年度40万人をキープしている。小山市においても直売所や観光施設こそが重要であり、集客や首都圏からの観光入込み数が増えて地元活性化につながると考える。

視察調査・研修会等報告書

2. ラムサール条約湿地・宮島沼はマガンの重要な中継地として登録されました。25haほどの小さな沼です。渡り鳥にとって重要な安息地としての役割を担っているとのこと。昭和から平成に掛けて基盤整備が進み水面が縮小しながらもマガンは急増してきた。小山市と同じように「ふゆみずたんぼ」を実施し、更に子供たちや大人も交えて教育現場との連携を進めている。団体での体験プログラム・宮島沼保全のため調査研究も実施し、年間ボランティアが各行事を提案している。小山市であっても人と自然を結び付け、人と人をも結び付ける素晴らしい取り組みになるのではないかと考えます。
3. 新千歳空港がある比較的若い街「千歳市」では、年間に6,000人ほどの転出入するという地域特性があり孤立する子育て家庭や妊婦・母親を守るためネウボラを開始した。妊娠・出産については、不安が大きく近くに親戚や知人もいないならなおさらです。特徴的な点は、①妊娠時や子育て時だけでなく、千歳市に転入してきたばかりの家庭に対して「ネウボラファイル」等で支援サービスについて案内し安心して子育てができることを伝えている。②就学前の育児だけでなく思春期(11歳～18歳くらい)までを包括的に支援することです。このように切れ目なく支援し親と子ども双方にフィンランドのネウボラの理念を実現しようとするものです。子育てするなら千歳市！子育てのまちをアピールするので、小山市においても移住・定住、人を迎え入れられるよう施策として実現したい。

視察調査・研修会等報告書

令和 4年 11月 15日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 覚



研修・視察年月日	令和 4年 11月 3日～5日
研修会場・視察先	ワークピア広島 広島市南区金屋町1-17
研修名・視察目的	1. 地方財政の予算編成について 歳入・歳出 2. 地方財政の教育予算の基礎
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	講師 足立 泰美
参加議員(同行者)	荒井 覚
調査概要	甲南大学 教授の足立氏 各地域の参加者の市政概要をホワイトボードに列記して(主に財政状況)講義に入った。予算の仕組み等を踏まえながらデジタル化の必要性を熱く話してくれました。DXや教育予算のICT化が絶対に有効ということでした。コロナ禍もあり教育分野のデジタル化が今まさに求められているのではないかと。これにより保護者も教師も負担を増やすことなく重要な教育事業に反映できるのだということでした。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	新型コロナウイルス感染がいまだに収束しない中で、各地方自治体では財政の収入に影響があるところが少なくない。そんな中、地方財政の歳出先には、衛生・学校・警察・消防・医療などの住民に身近な行政サービスがある。国が提供するものと比較しても地方自治体が提供する行政サービスのほうが割合が大きいのである。財政の弾力性を示す「経常収支比率」は令和3年度84.7%(小山市)へと回復、前年度は90.4%でした。同じく全国平均は93.8%。このように高い方の財政力を持っていますが、今後も物価高騰・金融市場の変動等不透明な状況があるので十分注視しつつ、歳入の確保に努めることが重要に思います。

視察調査・研修会等報告書

令和 5年 1月 20日

下記のとおり報告いたします。

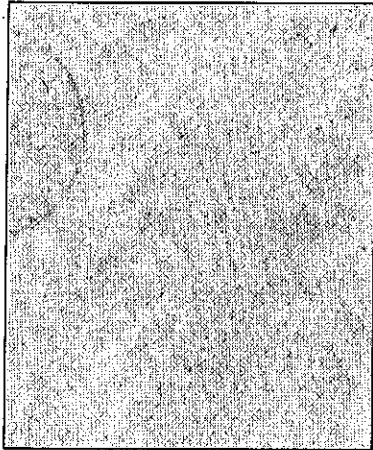
小山市議会議長 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 寛



研修・視察年月日	令和 5年 1月 16日～18日
研修会場・視察先	1. 兵庫県尼崎市役所 2. 兵庫県神戸市役所 3. 高知県高知市オーテピア高知図書館
研修名・視察目的	1. 電子地域通貨あま咲きコインについて 2. アーバンイノベーション神戸の取組みについて 3. オーテピア高知図書館について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	1. 経済環境局 経済部 地域産業課長 松田 登 2. 医療・新産業本部 新産業課長 武田 卓 3. 高知市民図書館 館長 高石 敏子
参加議員(同行者)	関 良平 小川 亘 福田 洋一 岡田 裕 篠崎 佳幸 福田 幸平 渡邊 一郎
調査概要	1. 電子地域通貨あま咲きコインについて 「Chiica」という既存の電子通貨システムを利用し地域振興券を電子決済できるようにしている。その中で子育て世帯向けの市独自の給付金なども受け取れる。 2. アーバンイノベーション神戸の取組みについて 様々な起業支援で行政職員が協働する地域課題解決手法。 3. オーテピア高知図書館について 科学館や視覚障害者支援施設の複合施設として整備された施設で街の活性化も担う拠点。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1. 給付金の受取りなどに利用できる範囲を広げていることで子育て世帯などに好評で利用者増に繋がっている。また、SDGS 関連の事業に参加することでポイントを得られる点が高評価であり紙媒体ではなくデジタルの強さを再確認しました。 2. 行政と民間のスタートアップでは、互いに弱点を補い合うことで実証実験や試作段階から実際に走り出すまで短期間で到達できるということが強み。事実、街の開発許可申請の電子化実証開発や医療イノベーションとして創薬や新技術の実証も出来ている。 3. 高知県と高知市の国内初の合築施設で市民の交流を深め生涯学習

視察調査・研修会等報告書



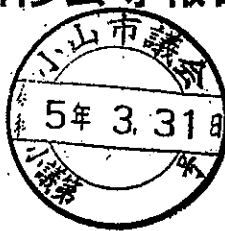
や文化の発展や地域の活性化を目指す複合施設図書館。県と市で役割分担をして企業や団体を巻き込んでその蔵書や専門性を非常に高く維持していこうと努力している。また、各種支援サービスを充実させて地域の課題解決パートナー・司書が水先案内人として市民に図書館サービスや図書について積極的に支援している。その充実度は当市でも参考にして今後の整備に活かしていきたい。

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 1 月 23 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 福田 孝一 様



議員氏名(荒井 寛)

<p>研修・視察日時</p>	<p>令和 5 年 1 月 23 日</p>
<p>研修会場・視察先</p>	<p>ライトキューブ 宇都宮</p>
<p>研修名・視察目的</p>	<p>都市のコンパクト化と地域公共交通の再構築</p>
<p>対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載</p>	
<p>参加議員(同行者)</p>	
<p>調査概要</p>	<p>人口減少社会のなかで、地方都市圏としての小山市はどのような都市政策をとり、どのような次世代交通を取り入れるべきなのかという点について、財政の視点、かりも考えてみる必要がある。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>道路中心の自動車社会から人が中心の交通システムへ切り換えられるべきか、人が交通をニーズにあわせて選ぶ時代になると思っているので、その時に当市では選択肢を用意できるようにする必要がある。ウォーターゲートは都市空間とは異なるコンパクト化となり、それをどのように創るかが当市の課題ではないか。土地利用規制なども見直しなければならぬ状況になりつつある。少子高齢化の進行において財政状況が悪化する点を見逃さず集約型都市へ誘導するべきである。</p>

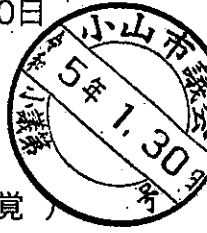
視察調査・研修会等報告書

令和 5年 1月 30日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 覚)



研修・視察年月日	令和 5年 1月 27日
研修会場・視察先	1. 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館 第二会議室
研修名・視察目的	1. 新4号国道の高速輸送化への取組み及び 高規格道路の研修
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	1. 国土交通省 道路局 国道技術課 課長 長谷川 朋弘
参加議員(同行者)	福田 幸平 高橋 栄 荒井 覚
調査概要	1. 初めに、新4号国道の正確な現在の整備状況を聞いた。栃木県から圏央道までについてであるが、現在高規格道路として整備は済んでいるとのことでした。(前提が有料道路としていない為、埼玉地区の未完成の立体交差は今後整備する) 小山市内では平面交差の連続する部分が2地点ほどあるが、ここがオーバースタップで整備すること出来ればかなりの高速化になるのではないかと。側道は一般道路として、内側2車線は信号を通過せずに自動的に高速道路のように走行可能な車線になる。 今後小山市のみならず近隣市町との連携して取り組んでいくべきものである。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1. 進め方としては、まず国の出先機関と連携していかなければならない。更に、近隣市町及び栃木県とも連携が必要だ。その為には、期成同盟の組織的動きが良いとのアドバイスをいただいたので活動に組み込んでみたい。ただ、茨城県や春日部市等も協力してもらおうことができるか、広域的な取り組みをしなければならないので今後の活動の中心にしていきたい。

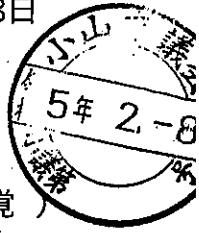
視察調査・研修会等報告書

令和 5年 2月 8日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋一 様

議員氏名(荒井 覚)



研修・視察年月日	令和 5年 2月 5日～7日
研修会場・視察先	1. 京都府京都市下京区函谷鉾町78番地 京都経済センター 2. 京都府京都市下京区四条通室町東入ル函谷鉾町79 ヤサカ四条烏丸ビル
研修名・視察目的	1. 地域公共交通のあり方「考える基礎と今日的課題」 2. 前逗子市長「予算審議のツボ」
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	1. 原田 昇 中央大学教授 2. 平井 竜一 前逗子市長
参加議員(同行者)	岡田 裕 荒井 覚
調査概要	1. 公共交通を単に移動ということだけでなく、日々の生活の面や街づくりというような面的に整備する観点で説明していた。「近隣住区論」というコミュニティ復権を目指した社会学的考え方や諸外国の事例を踏まえての講演が理解しやすかった。 2. 市長経験者のとても深い、思い入れのある話で当時の予算審議の修正案提出など経験談に基づいたとても分かりやすい内容だった。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1. 人口減少社会がすぐそこに迫っている…小山市でも今後は減少に転じると予測されるなかで公共交通はどうあるべきか。そこでパリの自宅から徒歩・自転車で15分に全施設が揃う「15分都市」というコンパクトシティの概念が実現できれば、人間らしい生活を支える公共交通サービスに繋がる。(ウォークアブルな街づくり。) 2. これからは行政もスピード感をもって対応しなければならないと考える中で、行政の既存の単年度予算方式について、今後は補正予算を組んでその時必要な施策に突き進むような姿勢が重要だと教えられた。(事業進捗の度合いが遅いのは不利益になる。)